

# セカンド チャンス

5

過去や失敗にとらわれることなく、再起の歩みに寄り添う人たちがいる。

カンサイ建築工業(大阪府岸和田市)の社長・草刈健太郎(43)が、少年院や刑務所を出た人たちを雇い始めて間もなく3年半になる。更生を支援するのは、妹に誓った使命でもある。

映画に熱中していた中学生の頃、自宅でレンタルビデオを見てみると、7歳下の妹・福子がいつも隣に座った。2人でストーリーを考え、映画の脚本作りのようなこともした。

10年以上たった2001年夏、草刈は映画脚本家の夢を諦めて家業を継ぎ、福子は関西外国語大を卒業して米留学を決めた。「お兄ちゃんの分も頑張ってくる」。久しぶりに自宅で一

## 出所者受け入れ 裏切られても……



出所した男性の仕事ぶりを見守る草刈健太郎さん。ひとり立ちできる日まで見届ける覚悟だ(大阪市淀川区)＝里見研撮影

# 再船出を支える覚悟

が言った。米国では、映画学校でアルバイトをし、米国人男性と結婚もした。

映画界で生きようとしていた05年12月、25歳だった福子は、夫に殺害された。別れ話を持ち上がったという。

遺品となったパソコンには、書きかけの脚本5本があった。草刈も好きなファンタジーだった。

「絶対に殺してやる」。

しみを口にしていた。1年半ほどして、友人に「このままでは取引先が離れる。会社潰れるぞ」と忠告され、「恨んでばかりでは福子が悲しむ」とわれに返った。

12年の暮れ、思いもしない依頼があった。

「罪を犯した人たちを雇用してほしい」。知り合いのお好み焼きチェーン「千房」(大阪市)社長・中井政嗣(71)からだ。出所

者らの更生を支える受け皿作りの構想が動いていた。

「妹を殺された俺が……」と動揺したが、しばらくして思い直した。「ボランティアにも熱心だった福子なら、やれと言っただろう」

半年後、初めて雇ったのは少年院を仮退院した元少年(21)だった。塗装工として働いていたが、無断欠勤を繰り返して、1年後、大麻所持の疑いで逮捕された。

それでも、面会で「もう1回頑張りたい」と頭を下

てないのか。「社会が受け入れないと、また妹のような被害者を生んでしまう」

美容室チェーン「プロダレッシュ」(大阪市)の社長・黒川洋司(45)も、中井の取り組みに賛同する一人だ。小学3年で両親が離婚し、母に育てられた。その頃から万引きに手を染め、高校に進学せず暴走族で暴れた。母と口論になれば、「くそばあ」と罵倒した。23歳

で傷害事件を起こし、初めて逮捕されたとき、面会室の母は悲しそうに、ただ見つめてくるだけだった。

結婚して息子を授かり、美容室の経営を始めていた。06年12月、母が急死した。59歳。亡くなって初めて、何一つ親孝行をしてこなかった後悔が胸を突いた。

15年8月には、リサイクル業で得た収益で、住まいと学びの場を提供する会社を設立した。大阪市福島区の空きビルを改装し、2、3階で4人が生活する。黒川美容室などで働きながら、月4万円の家賃負担だけで講師から英語や数学、お金の管理の仕方を学ぶ。会社名は「ビューマンハーバー大阪」にした。過ちへの風当たりが強まる時代だからこそ、失敗した人たちが再び社会へ船出するための「港」でありたい、と。

ける姿に、草刈は「ここで見捨てたら転がり落ちる」。家裁で保護観察処分になった元少年を再び受け入れた。2年たった今も働く。これまで雇った10人のうち、6人は逃げ出した。

昨年11月には、刑務所を出て夏前から働いていた男性(30)が姿を消した。「御恩は忘れません」と置き手紙を残していた。草刈は留守番電話にメッセージを入れた。「心配せんでええから、連絡してこい」。音信不通のままだが、いつまでも待つつもりでいる。

「せめて今からでも母に『よう頑張ったな』と言われる生き方をしたい」。そんな一心から、街でゴミ拾いをし、経営の勉強のためのセミナーに通い、児童養護施設で出張美容室を開いた。そして3年前から、出

意を込めて  
見送る  
大阪本社  
社務部  
〒530-8551  
大阪府大阪市  
北区南船場  
1-1-1  
電話 06-6361-0733  
ファクス 06-6361-0734  
Eメール osaka2@yomiuri.com